

安心と希望ある 社会実現のために

遠藤 義法

(問) 雇用不安、子どもを大事にしない社会、将来展望が見いだせない社会。市民は今と将来を憂えています。市民が安心して暮らすことができ、将来に希望の持てる社会をつくるために市長、教育長の現状認識と改善点、自ら実施すべき施策と国への働きかけは、

① 出産費用42万円、妊婦健診14回の無料化も約2年間だけの施策だが継続すべき。

② 保育所の増設を。

③ 幼稚園の費用負担軽減策。

④ 高校授業料の無償化。

⑤ 労働者派遣法を改正し正社員があたりまえの社会を。

⑥ 最低保障年金制度の創設で無年金・低年金の解消を。

⑦ 社会参加ができる交通網の整備、交通手段の確保を。

(答)市長 ①継続の必要性は感じてはいる。しかし継続には財源が必要であり、国の動向を見極めたい。②新たな保育所の必要性は認識している。家庭保育室の増設で乳児の受け

入れ拡大を図りたい。⑤非正規労働者の処遇改善や雇用保険制度拡充などのセーフティネットの充実を全国市長会を通して国に要望している。

⑥生活を安定させるためにも最低保障制度は必要である。

⑦平成18年にバス路線の整備がはかられてきており、多くの方に利用いただいている。

(答)教育長 ③子育て支援の一貫としての制度の充実を国へ要望している。④97%近い進学率であり、経済的負担軽減は必要であり、具体的実施の動向を注視している。

肺炎球菌ワクチン接種 (8000円)に公費助成を

小林 昭子

(問) インフルエンザは呼吸器から感染するため、ぜんそく、気管支炎、閉塞性肺疾患、肺気腫の人は肺炎を起こしやすい重症化します。肺炎を起こすのはウイルスではなく他の細菌であり、肺炎球菌ワクチンの摂取で8割方抑えられ、免疫効果は摂取後5年以上続くと言われてはいます。



三輪野江バイパス

新型インフルエンザに効くこのワクチン摂取に対して、全国的に高齢者等への公費助成制度が広がっています。新型インフルエンザから高齢者の健康を守るためにも早期の公費助成の実施を求めます。

(答)健康福祉部長 効果は期待されています。厚生労働省の「定期接種」位置づけへの動向もある。その時点で積極的に実施していく。

◆三輪野江バイパスと周辺
(問) 来春の全面開通に向け信号機、川端地内交差部分の高低、北口の改善等県との協議

は十分か。周辺は食べ物を作っている。資材置き場の乱立で良いのか。住民との話し合いは十分か。

(答)市長 県との協議は十分している。道路交差部分は現地確認する。環境への配慮などは指導していく。

生活道路の整備

(問) 保・中野地域歩道(ふたかけ部分)の「がたつき」改善を。

(答)都市建設部長 この地域の歩道はふたかけ部分を利用しているところが多い。現在実態調査をしている。

市民に愛される 市役所へ

安田 真也

(問) 各部署が市民に接する際に気をつけていることは。

(答)市長 市民の立場に立ち、真心を込めた対応をするようにしている。

(問) 市民から、役所の対応についての苦情があった。先例主義について見解を求める。

(答)市長 公正・公平という業

務の性格上致し方ない場合もあるが、説明の度合いや応対によって受ける印象が変わるため、市民満足度向上を目指すため、「品質マネジメントシステム」を導入中である。

(問) 内部での先例主義は致し方ないが、市民は相談で役所へ来ている場合が多い。事例がない、前例・先例がないと言ってそこで話を終了させるのはいかがなものか。

(答)政策室長 対応については市民ニーズの実現に前向きに取り組む姿勢で親身な対応が必要であると考え。窓口対応については再度徹底を図っていく。

◆コンシェルジュ制度導入を

(問) 現在総合窓口案内が設置してあるが、それとは別に、問題解決型相談窓口・相談員(コンシェルジュ)を設置し、問題解決までのお世話をすれば、より市民に満足感を与えられるのでは。

(答)政策室長 職員のコミュニケーション能力向上や、再任用制度活用も含めて、コンシェルジュ制度導入について検討をさせていただきたい。

◆三輪野江バイパスと周辺
(問) 来春の全面開通に向け信号機、川端地内交差部分の高低、北口の改善等県との協議